

## Warren Buffett 氏が率いる投資会社、SunPower 社の Antelope Valley Solar Project(579MW)を 25 億ドルで買収<sup>1</sup>

新エネルギー・国際協力支援ユニット

新エネルギーグループ

新年早々、米国最大<sup>2</sup>の大規模太陽光発電プロジェクトの買収が発表され、太陽光発電に対する米国の機関投資家及び一般投資家の関心が大いに高まっている。Bloomberg(1/3)は、Warren Buffett氏が率いる投資会社、MidAmerican Energy Holding社がSunPower社によって進められている Antelope Valley Solar Project (AVSP) を 25 億ドルで買収したと報じた。SunPower社は米国を代表する太陽光パネルメーカーで、4年前からカリフォルニア州のカーン郡とロスアンジェルス郡の 3,230 エーカーの土地に、合わせて 579MWの太陽光発電プラントを建設するプロジェクトを進めていた。既に環境アセスメントも終了し、2013 年第一四半期に建設を開始、2015 年末完成の予定である。また、Southern California Edison 社と長期の売電契約も締結されている。SunPower社はプロジェクトの利権の売却後も本プラントの建設、操業、保守業務に携わり、25 億ドルの買収額はその報酬も含む。

SunPower 社の 2011 年の決算は 6 億ドルの赤字、2012 年 4-6 月も 8420 万ドルの赤字で株価は 4 ドル台に低迷していたが、AVSP プロジェクト売却の発表後、株価は 8 ドル以上に急騰しその後も 7 ドル台を維持している。ロイター(1/2)はこの株価上昇は SunPower 社が進めてきた AVSP プロジェクトの経済性(長期的な)が著名な投資家によって認められたこと、売却収入によって資金繰りが改善すること、それによって、銀行からの借入れが容易になることなどが好感されたものと報じている。しかしながら、Raymond James リサーチ会社のアナリスト、Marshall Adkins 氏の言を引用し、SunPower 社の高コスト体質と供給過剰のため太陽光パネルの製造販売利益率が極めて低い現状にはなにも変化がなく、SunPower 社の厳しい経営状況は今後も続くとも報じている。

SunPower 社及び後述する First Solar 社は太陽光パネル製造専業から太陽光発電事業へビジネス展開を図ってきているが、今回の SunPower 社の AVSP プロジェクトの売却は、苦境が続く太陽光パネルメーカーが生き延びる方策として、太陽光発電プラントの建設、操業、保守部門への進出が始まっていることを表している。First Solar 社は、また、厳しい市場競争に打ち勝つため同社の研究開発の強化に力を入れている。pv magazine(1/7)によると、First Solar 社は High-Productivity Combinatorial™ (HPC) と呼ばれる R&D 支援ソフトウェアを有する Intermolecular 社と提携し、高効率 CdTe 薄膜太陽電池の研究開発をより早くより効率的に進めるという。

MidAmerican Energy Holding社の再生可能エネルギーへの投資は、MidAmerican Renewable

<sup>1</sup>本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業(海外省エネ等動向調査)」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

<sup>2</sup> 中国では 2012 年に 2 つの 1GW の太陽光発電プロジェクトが、それぞれ Jinchang 市政府、China Merchants New Energy Group (State-owned conglomerate)によって発表されている。

社によって進められており、同社は 2011 年 12 月に今回と同様の 2 つの大規模太陽光発電プロジェクトを買収した。一つは Topaz Solar Project (550 MW、カリフォルニア州) で First Solar 社から 20 億ドルで買収、もう一つは Agua Caliente Solar Project (290 MW、アリゾナ州) で、事業者である NRG 社の 49% のシェアを買収した。今回買収した AVSP をいれて同社が保有する再生可能エネルギー発電容量は 1,830MW (風力 381MW、太陽光 1,419MW) に達している。今回の買収は米国での再生可能エネルギー発電、特にユーティリティー規模の太陽光発電プロジェクトの長期的な経済性が高いことを表している<sup>3</sup>。

Warren Buffett 氏による SunPower 社の AVSP プロジェクト買収発表後、SunPower 社のみならず、米国株式市場に上場している Suntech 社、Yingli 社、JA Solar 社等の中国の太陽光パネルメーカーの株価も大きく上昇している。また、世界の再生可能エネルギー企業 30 社の業績を加重平均して計算される世界再生可能エネルギー産業指数 (RENIXX World : Renewable Energy Industrial Index) も過去 3 年間大幅に下落してきたが、若干の上昇を示した。このような株価上昇をもたらす著名な投資家による太陽光発電ビジネスへの大規模投資は太陽光パネル産業界にとって明るい話題といえる。米国の太陽光発電ビジネスに対する強気な見方は他の投資機関も共有している。Bloomberg(1/17) は「米ゴールドマン・サックス・グループは再生可能エネルギーへの世界的な移行は不可避とみて同業界が選好されると予想している。再生可能エネルギー業界の回復を見込み、同業界への出資の取り組みを加速させている。」と伝えた。また、「米国のユーティリティー規模の太陽光発電プロジェクトへの関心は MetLife Insurance、Citi Bank 等の機関投資家の間でも高まっており、2016 年までに 200 億ドル以上の資金が集まるであろう」との Frost & Sullivan 社のレポートを紹介した。

pv magazine (1/14) は、「2013 年の世界の太陽光発電市場は 22% 拡大し、33.4 GW に達する」というドイツ銀行のレポートを紹介した。同銀行のアナリスト Vishal Shah 氏は市場拡大の要因として、中国やインドなどの新興市場の台頭と米国の伸びを挙げており、「これらの市場の拡大がドイツやイタリアの減少分を補う。中国は昨年の 4 GW から 2 倍以上の 10 GW に拡大する。インド市場は 3 倍以上拡大し 4 GW に、アメリカ市場も 29% 拡大して 4.5 GW に達する」と予想している。

太陽光発電の発展には国(州)の政策の役割が大きい。中国政府は 2013 年の導入目標を 10 GW に設定し、国策として太陽光発電の導入を強力に推し進めている。米国は太陽光産業育成政策の適切な運用と市場メカニズムの活用によって太陽光発電の導入を図っている。同時に市場の有力なプレイヤーである機関投資家、および、その動きを注視している一般投資家の役割も大きく、その動向が注目される。

(ニュースソース : Bloomberg 1/3、1/17、ロイター 1/2、pv magazine 1/7、1/14)

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp

<sup>3</sup> 米国の太陽光発電事業はカリフォルニア州がリードしており、これは同州の Renewable Portfolio Standards(RPS)の比率が高い(33%)ことが背景にあると考えられる。